

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A (問1~10) : 授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①~④のうち該当する丸数字を選んでください。 ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問1 シラバスに沿って授業を行えた。

①:26 (58%) ②:17 (38%) ③:0 (0%) ④:2 (4%) 未回答:0 (0%)

設問2 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:26 (58%) ②:19 (42%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問3 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

(教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。)

①:24 (53%) ②:21 (47%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問4 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:22 (49%) ②:23 (51%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問5 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:25 (56%) ②:16 (35%) ③:4 (9%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問6 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

(授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為(私語など)に対して毅然として実施した。)

①:36 (80%) ②:9 (20%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問7 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

(発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加(アクティブ・ラーニング)を促した 等)

①:36 (80%) ②:9 (20%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問8 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:33 (74%) ②:10 (22%) ③:2 (4%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問9 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:21 (47%) ②:24 (53%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問10 シラバスに掲げた当初の授業目標(ねらい)は達成された。

①:23 (51%) ②:20 (45%) ③:2 (4%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

B（問 11～15）：FD 活動についてお尋ねします。

設問 11 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 16（36%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 41（91%）
- ③他大学の FD 活動の視察： 12（27%）
- ④その他： 14（31%）

設問 12 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 37（82%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 40（89%）
- ③他大学の FD 活動の視察： 24（53%）
- ④その他： 15（33%）

設問 13 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、 回答：25 クラス（順不同）

[1] 期末テストだけでなく、中間テストを行い、その時点での理解度を確認するようにした。それにより、後半の指導の方向性を考えることができた。学生側にも、期末に全てを復習しなくてすみ、新しく習った内容を復習する良いサイクルができたと思う。・・・3 クラス

[2] 農学部に関連のある英字新聞の記事を課題に出し英語に触れる時間を増やすよう努めた。

[3] 学生が興味を持てる題材を使用して授業を行った。

[4] 授業外学習の内容、課題内容・締め切り等について、繰り返し、繰り返しアナウンスして徹底した。

[5] A greater focus upon spoken clinical case presentations・・・2 クラス

[6] Survey activity and presentation focus was greater

[7] リスニングを強化しました。

[8] 自宅学習時間を増やすために、課題学習に WebClass を活用し、学習状況を把握できるようにしました。・・・4 クラス

[9] 今回は、前半に OCEP を取り入れ、学生が自由に意見交換する機会を設けた。昨年より少々難しい TOEFL 問題の TEXT を使用した。

[10] 昨年度は医療用語中心の短い場面会話を中心に取り上げたが、今年度は、患者とのコミュニケーションが取れる会話力の育成を目標に、より実践に近い場面設定の会話を中心に、やり取りの回数も増やし、学生自身が会話内容を考えて話すようなタスクを多く取り入れた。

[11] 短い場面会話から、ターンの多い場面会話へと移行した。

[12] 授業の一環として昨年に引き続き、海外の英語教室とオンライン交流を行った。学生の作業・学習の進み具合を可視化する方法を開発し、準備や実施をより効率的に実施することができた。そのおかげで、学生への指導・助言もよりタイムリーに行うことができた。・・・2 クラス

[13] OCEP を取り入れることで、少しでも英語を身近なものに感じ、自己表現等ができる機会ができたのではと思う。教科書を TOEFL ベースのものにし、中でも農学部関連の題材をリスニング課題にし、リスニング力 UP を試みた。

[14] 留学生を招く回があるので、学生主導の部分を大幅に増やしたこと。小グループでの学生と留学生とのフリートークの時間を設定する工夫ができたこと。

[15] 単語テストの回数を増やした。・・・2クラス

設問 14 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 34 クラス（順不同）

[1] 個々の学生の活動に対し、クラスメンバーの意見を全体に提示する方法を取り入れたが、この方法は、学生の学習意欲向上につながったと考えられる。・・・2クラス

[2] 農学分野の内容を扱うリーディングとライティングを中心とした活動を行なった。

[3] リスニング力をつけるため、普段から CD の内容をできるだけ聞くよう指示しました。クラスでもペアワーク等で、できるだけ声を出させるようにした。”

[4] 英語で話すことへの抵抗を減らす工夫を随所に取り入れた。・・・2クラス

[5] 農学分野の内容を扱うスピーキング活動を増やした。

[6] 学生がのびのび英語の学習ができる環境を教師が作ることの重要性をあらためて認識した。学生の潜在力と成長には大変驚かされたクラスであった。

[7] I was happy see that the active learning style used this time with group presentations seemed to be very successful, and the students were able to produce a lot of English, both spoken/written output and reading input.

[8] 全ての学生のレベルにあった内容ではなかったかもしれないが、ピアラーニングを取り入れたことで、レベル差を補い、協働してタスクに取り掛からせることで、授業内容理解へとつなげた。

[9] 地域学部の学生を初めて担当したが、ビジネス英語の研究等を踏まえて、学生のニーズ把握はある程度しっかりできていたと考えている。

[10] 各エピソードごとにチェックテストを実施。授業外で TOEIC 単語テストを実施。これらのテストを実施することで、自学習時間を確保。授業内では、ピアラーニングを中心に授業を進めることで、学生間のレベル差をあまり感じさせない授業進行ができた。

[11] 反省点としては、ライティングをもっと増やした方がいいではないかと思えます。

[12] WebClass のメッセージ機能を活用し、連絡事項や指示をこまめに送ることができました。・・・3クラス

[13] この時間に、サマープログラム参加の留学生との交流、および、台湾人留学生との交流が、14 週目と 15 週目に立て続けに入ることになり、当初は会話の練習に特化したシラバスを組んでいたが、途中から日本文化を英語で紹介するシラバスに大幅に変更した。学生にはとまどいも見られたが、実際に外国人の前で英語でプレゼンする機会が 2 回もあり、出身国による反応の違い、どの話題に興味を持ってもらえるか、など、実体験として理解するまたとない機会となった。特に、多くの留学生から興味を示された話題の提供者は満足度が高かった。一方で、じっくり話を聞いてもらえなかった話題提供者は厳しい現実を味わうこととなり、努力が報われなかったのは気の毒だった。

[14] 前半に OCEP を取り入れたが、思ったより時間を取られてしまい、TEXT を十分に消化できなかった。前半は、TEXT からリスニング課題を毎回課すことによってリスニング力を高める努力をしたが、成果の方は微妙でした。

[15] できるだけ実践で役立つものに絞ったタスクを課した。学生も、使える英語のレパートリーが増えたのではないだろうか。反省すべき点としては、90 分の授業の中に、やるべきことを詰め込み過ぎた感が否めないため、もう少し余裕を持たせて、タスクにじっくり取り掛かれる内容にしていきたい。

[16] 少々内容を詰め込み過ぎた感が否めない。もう少し余裕を持って、自由会話（創作）などをもっと多く取り入れた方が、学生の自由度が増え、より活発な会話が見られたかもしれない。

[17] 1 回の授業内容の密度が高すぎたかもしれない。もっと余裕を持った計画を立て、学生の発言機会をさらに多く持たせ

ると良いのかもしれない。

[18] 学術英語の導入にあたり、学習内容について少し重複する部分があったため、今後整理していきたい。・・・2クラス

[19] 今回初めて OCEP を取り入れたが、良い点は、学生が自分の力で英文を作成し他国の学生と交流でき、それなりに自信をつけたこと。反省点は、OCEP と TEXT の時間配分が初めてのことであまりうまくいかなかったこと。

[20] 本年度は、英語の表現力アップのため、自宅学習の促進と確認を加えた。また、留学生との交流活動を取り入れているが、その人材の確保と時間割の振り分け、並びに事務作業にかなりの時間を必要とするが、毎回少しずつ工夫を施している。・・・2クラス

[21] 単語テストの回数を増やしたため、学生の TOEIC スコア平均的上がったと思います。

[22] TOEIC のスコアアップが主たる目標でしたが、数字上の達成はなりません。しかし、学習方法を伝えることに力を入れており、将来的に役に立つことを期待したいです。

設問 15 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： なし

C (問 16～18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 16 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 42 (93%) ②いいえ： 3 (2%) 未回答： 0 (0%)

問 16 で「はい」の方は問 17、18 にお答えください。

設問 17 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

- ①聞いて理解する： 34 (76%)
- ②読んで理解する： 35 (78%)
- ③自分の考えをまとめて話す： 28 (62%)
- ④自分の考えを文章にまとめる： 28 (62%)
- ⑤討論する： 23 (51%)
- ⑥皆の前でプレゼンテーションする： 24 (53%)
- ⑦その他： 11 (24%)

設問 18 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 36 クラス（順不同）

[1] 農学分野の内容を扱うリーディングとライティングを中心とした活動を行なった。・・・2クラス

[2] 聴衆を考えた記事選定、原稿作成、発表方法等の指導を行った。・・・2クラス

[3] 自宅学習課題をベースにしたペアトークやグループトークの多用。・・・2クラス

- [4] 自己紹介をグループで発表。新聞記事を読んで、まとめてくる課題を出しクラスでグループ内で発表等。
- [5] グループ活動・1分間スピーチ（計6回）に取り入れた。・・・2クラス
- [6] 農学分野の内容を扱うスピーキング活動を増やした。
- [7] 英語によるコミュニケーション場面で活用できるコミュニケーション方略について学習させ、それを取り入れた英語でのグループスキットを発表させた。学生の表現力が大きく伸びたと感じた。
- [8] Students need to communicate using English language when they are working in active learning groups.
- [9] All skills used interactively for the communication of significant clinical content・・・3クラス
- [10] ラジオドラマを楽しみながら聞いて理解する、という授業内容だったため、リスニング力の強化に特化した授業となった。また、ドラマキャストになりきってセリフを言うなどし、ただ発音するだけではなく、抑揚にも気を配った言い回しができるようになった。
- [11] グループでオーラル・プレゼンテーションを行った。そこで、グループメンバーとのコミュニケーションを取れるように機会を設けました。
- [12] テキストに関連する内容に加え、日常会話のレベルでも、互いの話に興味を持ち質問する力を付けるためのアクティビティを毎回取り入れました。
- [13] 自分がよく知っている話題（アニメや趣味など）に絞ることで、英語でどう話すか、ということに特化できた。Wikipedia など英語サイトから丸写しを試みる学生がいたが、結局は話があまりにも細かく冗長になってしまい、かえって留学生から嫌煙される、ということを経験するいい機会となった。自分でどういう切り口で話すかを考え、しっかりと構成を練った上で英語化した学生は、留学生にも話が分かり易いと好評だった。
- [14] コミュニケーション能力の育成のため、グループごとテーマを設定しました。グループメンバーで問題解決できるように討議し、プレゼンテーションを行った。また、自由テーマでグループのオーラル・プレゼンテーションも行った。・・・2クラス
- [15] テキストに関連する内容に加え、日常会話のレベルでも、互いの話に興味を持ち質問する力を付けるためのアクティビティを毎回取り入れました。
- [16] All language and cognitive skills are used interactively for the communication of significant clinical content・・・2クラス
- [17] スカイプを用いて、海外協定校とオンライン交流、遠隔授業を行った。また、協定校の獣医学の学生との討論・交流会を設けました。
- [18] 自分で選んだもの・ことについて、他の学生に魅力をアピールするプレゼンを実施。1回だけの発表で終わらず、同じ内容を5回、話す相手を変えて発表することで、少しずつ発表の内容、話し方などが改善できた。
- [19] 基本的な会話表現を学んだあと、設定された状況での会話内容を自分で考え、口頭で表現する。
- [20] 基本表現を学習後、設定された場面に合った会話内容を学生自身に考えてもらう等、実際に使ってみるタスクを多く課した。
- [21] OCEPに参加することで、学生たちが他国の学生と自由にコミュニケーションを取ることができ、成果も大きいと感じた。
- [22] 授業の一環として昨年に引き続き、海外の英語教室とオンライン交流を行った。・・・2クラス
- [23] OCEPを取り入れることで他国の学生と英語で自分を表現し、考えを伝えられたこと。
- [24] グループ活動・留学生とのプレゼンテーション交流・・・2クラス

D (問 19~22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 19 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

教員 FD 活動レポート（基礎教育）H29 前期 まとめ 英語

①はい： 12 (27%)

②いいえ： 29 (64%)

未回答： 4 (9%)

問 19 で「はい」の方は問 20～22 にお答えください。

設問 20 その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

① 1～5 回： 11 (25%)

② 6～10 回： 1 (2%)

③ 11～15 回： 0 (0%)

未回答： 33 (73%)

設問 21 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

① 歴史・文化： 8 (18%)

② 政治・経済・産業： 11 (24%)

③ 自然環境・フィールド体験： 7 (16%)

④ その他： 3 (7%)

設問 22 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 16 クラス

[1] 地域をテーマとした英作文の活動を行なった。・・・ 2 クラス

[2] 日本文化（先輩、おとしだま、漢字）や宮崎（鬼の洗濯板、海の家、天照大神）などについてのトピックを取り上げてスキットを作らせた。

[3] In my classes general skills can be applied regionally, particularly when visiting students and scholars in medicine interact with them in Miyazaki・・・ 4 クラス

[4] 英作文の課題で、地域に関連したテーマを扱った。

[5] OCEP で、地域の紹介や、地域の抱える問題について考え、投稿する機会があった。

[6] 宮崎の産品について、海外や外国人にアピールのため、ポスターを作成・発表

[7] 授業冒頭のフリートークのテーマのいくつかを、宮崎に関するものを取り上げて意見表明するものに設定した。また、ビジネスメール作成の際に取り上げる具体例を地域の産業、会社に設定するよう指示し、事前に調査するタスクを課していた。

[8] 授業の一環として、海外の英語教室とオンライン交流を行い、その中で海外の学生に対して地域の特色を英語で伝える活動を行なった。・・・ 2 クラス

[9] OCEP の中で、地域が抱える問題とその解決方法を書く題材や地域の食べ物屋産業を紹介する題材がありました。